

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第97号

平成28年 4・5・6月



●信貴山縁起絵巻 延喜加持巻(部分) (奈良・朝護孫子寺)

特別展

国宝 信貴山縁起絵巻

-朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝-

4月9日(土)~5月22日(日)
東・西新館

特別陳列

和紙

-近代和紙の誕生-

6月7日(火)~7月3日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏たち
4月29日(金・祝)~
なら仏像館

珠玉の仏教美術
6月7日(火)~7月3日(日)
西新館

中国古代青銅器
通期開催
青銅器館

特別展

国宝

信貴山縁起絵巻

— 朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝 —

4月9日(土)～5月22日(日)

毘沙門天王の聖地として聖徳太子が創建したと伝えられる信貴山朝護孫子寺。その篤い信仰のもとに制作された国宝 信貴山縁起絵巻は、日本三大絵巻の一つに数えられる平安絵画の傑作として知られています。

本展覧会は、この人々を魅了してやまない国宝絵巻全三巻全場面をすべての会期にわたり同時公開する、史上初めての試みです。さらに朝護孫子寺伝来の名品の数々を通じて、信貴山毘沙門天王への信仰が生み出した造形の魅力にも迫ります。



●信貴山縁起絵巻 山崎長者巻



●信貴山縁起絵巻 延喜加持巻



●信貴山縁起絵巻 尼公巻 すべて奈良・朝護孫子寺蔵

名品展

4月29日(金・祝)

なら仏像館 リニューアルオープン

平成二十八年(二〇一六)四月二十九日、「なら仏像館」(重要文化財「旧帝国奈良博物館本館」)は二ヶ年に及んだ改修工事を終え、リニューアルオープンします。

今回の工事は、外壁のクリーニングと補修、仏像専門の展示館にふさわしい展示ケースや展示台の導入、そして照明設備の一新を内容としました。ケースと展示台については、すべて免震機能を備えたものとし、ケースのガラスには高透過ガラスを採用、さらに低反射フィルムを貼付しました。照明は、天井照明や間接照明、また作品を直接照らすスポット照明のすべてにつき、LEDの器具を使用しました。これらの設備によって、展示されている作品の魅力をより多く引き出すことが可能となりました。多くの方々のご来館をお待ちしています。



◎虚空蔵菩薩坐像(文化庁)



改修後の展示室

特別陳列

6月7日(火)～7月3日(日)

和紙

—近代和紙の誕生—

当館では、昨年「和紙—文化財を支える日本の紙」を開催しましたが、その続きとして第二弾の和紙の展示を開催します。

「和紙」という用語は、明治時代に西洋から輸入されたパルプを原料とする「洋紙」に対して用いられ始めました。江戸時代までは伝統的な手法により各地域で紙が生産されていました。洋紙に比べ生産効率が低劣でしたが、洋紙に比べ生産効率が低劣していました。高知県出身の吉井源太は、和紙の生産効率の向上、インクのにじまない和紙の開発など、多くの技術改良を行い、日本各地への普及を行いました。

本展では、江戸時代までの日本の紙が明治以降に技術改良され「近代和紙」に生まれ変わったその道のりを、江戸時代以前の品や関連資料とともに紹介します。

生誕800年記念特別展

7月23日(土)～9月19日(月・祝)

忍性

—救済に捧げた生涯—

奈良生まれの名僧、忍性。鎌倉時代、西大寺の叡尊のもとで律宗の興隆に努め、後半生は鎌倉の極楽寺で戒律の復興と救済事業に奔走しました。病人や貧者の宿所を作り、食事を与えて命を救い、文殊菩薩を供養して心の支えとしました。ハンセン病患者を背負って毎日町に通ったという話は有名です。

本展ではこの忍性の生誕八百年を記念して、ゆかりの寺院の名宝・文化財を一堂に集め、その偉業を偲びます。



◎忍性骨磁器(額安寺五輪塔納骨) (文化庁)



忍性菩薩像(部分)(奈良・西大寺)

写真の虚実

仏像写真展

「大和の仏たち―奈良博写真技師の眼―」閉幕によせて

当館学芸部資料室員 佐々木香輔

写真に深く関わっている者こそ、実は写真をあまり信頼していなかったりもする。一眼で立体を描写する限界、色の再現性、光源の角度やカメラの位置による見え方の違いなど、知れば知るほど写真は「真を写さない」ことがわかる。そんなシステムに写真という言葉をあてがわれ、その言葉を掲げた職を担わなければいけないのだから、写真技師の心中は穏やかではない。

では、写真が写し出すすべてが虚像かと問われると、そうは言い切れない。絵やCGと違い、写真は眼前に被写体がない限り写すことができない。必ずこの現実の世界に、カメラのレンズは焦点を合わせ、真実は写さないかもしれないが、この世界のある事象は写している。

写真は、複雑に入り組んだ世界から切り取る、撮影者のあるひとつの視点である。例え客観的と表される写真でも、そこには客観的に撮るといふ撮影者側の意図が入り込む。どこまでいっても、撮影者はその意図と付き合い撮影をしていかなければならない。

右記したように、写真はこの世界の事象と密接に関わりながらも、フィクションをも持ち合わせるメディアである。フィクションという言葉からは「虚偽・虚構」など、マイナスなイメージも連想される。もちろん写真を「不正」に改ざんし、「虚偽・虚構」の画像を用いることは学術上あつてはならないことであり、細心の注意を払わなければならない。しかし、どこまで徹底し注意してもフィクションを持ち合わせるのが写真である。そして、誤解を恐れずに言うならば、写真の魅力はそのフィクションの部分にこそあると私は思う。

仏像写真の嚆矢である小川晴暘が一部執筆し、昭和十一年（一九三六）に刊行



地下回廊における仏像写真展「大和の仏たち-奈良博写真技師の眼-」は、平成28年3月27日をもって幕を閉じた。仏像という立体物の写真に特化し、博物館写真の一端を紹介する当館初の試みであった。上段写真は展示風景、下段写真は関連イベント「仏像を撮ってみよう!」で参加者(60代・男性)が撮影した香薬師模造(当館蔵)。

された『最新写真科学大系 古美術写真・スポーツ写真撮影』（誠文堂新光社発行）には、赤外線撮影や建築物の撮影方法など、文化財を正しく撮影する技法が詳しく解説されている。その中で小川は、撮影した仏像の背景を減力法で黒く処理する技法の重大性を説き、「専門家と素人とはこの技術の有無で大體區別されるといふ位である」とさえ表している。減力法とは、ある薬剤をガラス乾板の膜面上に塗布し、乾板上の画像濃度を調整する技法であり、小川は必要に応じてこの技法で背景を黒くしていた。黒背景から浮かび上がる妖艶な仏像写真は、減力法という緻密な暗室作業によって初めて完成をする。小川の写真は、和辻哲郎の『古寺巡礼』、日本工房発行の対外グラフ宣伝雑誌『NIPPON』などに使用され、仏像の魅力を伝える写真として当時の人々に受容されていく。現代の文化財写真技師からみても、この減力法は戸惑いを感じるほど大胆な技法である。しかし、この減力法による黒背景というフィクションが、仏像の魅力をより引き立たせることに成功しているのは疑いのないことだろう。

さて、虚も実も内包する写真で、文化財と向き合う現代の文化財写真技師たちは一体何ができるだろう。デジタル写真の時代になり、「虚偽・虚構」の悪用ばかりがニュースになる時代。いま一度、「写真」とは何かを考えながら、撮影に取り組んでいきたい。



◎如意輪観音像(当館)



◎降三世明王坐像(金剛寺)



◎法華説相図(長谷寺)



阿弥陀如来坐像(善福寺)

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

4月29日(金・祝)～6月26日(日)

〔彫刻〕

〔第1室〕

- 大将軍神坐像 当館
- 藏王権現立像 当館
- 地藏・龍樹菩薩坐像 当館
- 毘沙門天立像 当館
- 南無仏太子立像 当館

〔第2室〕

- 十一面観音菩薩立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 海住山寺
- 薬師如来坐像 当館
- 観音菩薩立像 本山寺
- 観音菩薩立像 細見美術財団

〔第3室〕

- 阿弥陀如来坐像 当館
- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院
- 阿弥陀如来坐像 善福寺
- 薬師如来坐像 当館
- 阿弥陀如来坐像 金剛寺
- 阿弥陀如来坐像 当館

〔第4室〕

- 菩薩立像 金竜寺
- 力士立像 当館
- 虚空蔵菩薩坐像 文化庁
- 薬師如来坐像 見徳寺
- 文殊菩薩坐像 薬師寺

〔第5室〕

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 悟真寺

- 如来立像 当館
- 菩薩立像 法起寺
- 菩薩半跏像 神野寺
- 観音菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 金剛寺
- 二仏並坐像 個人
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 観音菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 力士立像 個人
- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 園城寺
- 薬師如来坐像 文化庁
- 大威徳明王騎牛像 当館
- 不動明王立像 当館
- 勢至菩薩立像 当館

〔第6室〕

- 阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 薬師如来立像 元興寺
- 法華説相図 長谷寺
- 阿閼如来坐像 西大寺
- 如来三尊像 当館
- 如来三尊像 個人
- 天部立像 兵庫県
- 如来立像 当館
- 阿弥陀如来坐像 歡喜寺
- 宝冠阿弥陀如来坐像 當麻寺
- 如意輪観音菩薩坐像 海住山寺
- 薬師如来坐像 当館

〔第7室〕

- 千手観音菩薩立像 妙法院
- 光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 薬師寺

- 十一面観音菩薩立像 地福寺
- 千手観音菩薩立像 園城寺
- 十一面観音菩薩立像 元興寺
- 廣目天立像 興福寺
- 增長天立像 当館
- 多聞天立像 当館
- 二天王立像 室生寺
- 降三世明王坐像 金剛寺
- 龍猛菩薩立像 泰雲院
- 地藏菩薩立像 十市町自治会
- 地藏菩薩立像 長命寺
- 明星菩薩立像 弘仁寺
- 十一面観音菩薩立像 松尾寺
- 弥勒菩薩立像 林小路町自治会

〔第9室〕

- 不動明王立像 当館
- 愛染明王坐像 当館
- 不動明王坐像 園城寺
- 馬頭観音菩薩立像 浄瑠璃寺
- 不動明王坐像 正壽院
- 十二神将立像(午神・亥神) 当館
- 四天王立像 海住山寺
- 四天王立像 靈山寺
- 八幡三神坐像 薬師寺
- 天津皇子坐像 薬師寺
- 僧形神坐像 当館
- 女神坐像 当館
- 男神坐像 観音寺
- 童子形坐像 当館

〔第12室〕

- 文殊菩薩騎獅像 文化庁
- 菩薩坐像 文化庁
- 帝釈天坐像 室生寺
- 十二神将立像(辰・未神) 室生寺
- 諸尊仏龕 個人

- 諸尊仏龕 寂照寺
- 吉祥天倚像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 僧形立像 当館
- 観音菩薩立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 如意輪観音坐像 当館
- 蔵王権現立像 大峯山寺

〔第14室〕

- 破損仏像残欠コレクション(一〇〇点) 当館

名品展

珠玉の仏教美術

西新館 6月7日(火)～7月3日(日)

〔絵画〕

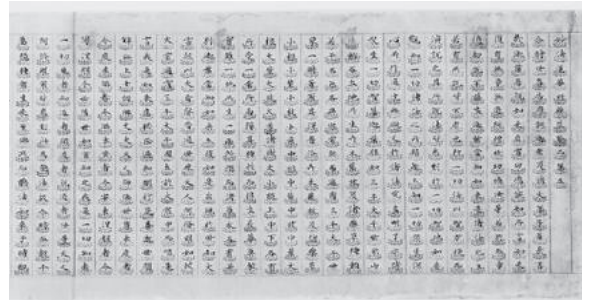
- 六字経曼荼羅 当館
- 補陀落曼荼羅 聖林寺
- 千手観音像 当館
- 千手観音像 当館
- 千手観音二十八部衆像 千光寺
- 千手観音影向図 当館
- 十一面観音像 金心寺
- 十一面観音像 太山寺
- 十一面観音像 松尾寺
- 不空罽索観音像 当館
- 不空罽索観音像 一乗寺
- 如意輪観音像 海龍王寺
- 如意輪観音像 当館
- 水月観音像 天庵妙受賛 当館
- 白衣観音像 約翁徳儉賛 当館
- 白衣観音像 談山神社 当館
- 水月観音像 聖衆来迎寺 当館
- 白衣観音像 興国寺 当館
- 水月観音像 聖衆来迎寺 当館
- 白衣観音像 興国寺 当館
- 諸観音図像 勸修寺
- 覚禪鈔 聖観音法 観音正寺
- 三十三観音像 観音正寺



●栗原寺伏鉢(談山神社)



刺繍種子阿弥陀三尊像(禪林寺)



●一字蓮台法華經(龍興寺)

●観音経

本土寺

【書跡】

瑜伽師地論 卷第十六(五月一日経) 個人
大般若経(安倍小水麻呂願経) 慈光寺
一字蓮台法華経 卷第三 龍興寺

●法華経一品経 神力品第二十一 長谷寺
弘法大師二十五箇条遺告 能満院

●弘法大師御勸文 当館

●伝教大師求法書等 当館

●越中国射水郡鳴戸村墾田図(麻布) 当館

●越中国射水郡鳴戸村墾田図案 当館

●越前国坂井郡高申村東大寺大修多羅 当館

●越前国伊豫郡東大寺開田図 当館

●豊前国仲津郡丁里戸籍断簡 当館

●民部省符 当館

●三宝絵断簡(東大寺切) 当館

●明月記断簡 当館

●明恵上人夢記 当館

●中臣祐賢和歌懐紙(春日懐紙) 当館

●清拙正澄墨跡 法語 当館

【工芸】

●刺繍阿弥陀如来来迎図 長岳寺

●刺繍阿弥陀三尊来迎図 中宮寺

●刺繍阿弥陀三尊来迎図 個人

●刺繍種子阿弥陀三尊像 禪林寺

●刺繍種子阿弥陀三尊像 大福田寺

●刺繍種子阿弥陀三尊像 当館

●泥塔法然上人絵伝 一心寺

●錦幡 西明寺

●刺繍三昧耶幡 当館

●錦幡 模造 当館

●錦幡 模造 当館

●蓮池蒔絵経箱 文化庁

●華瓶 当館

●火舎 当館

●蓮華形柄香炉 真光寺

●蓮華形香炉 個人

●宝相華文透彫華籠

華籠 神照寺

●華籠 万徳寺

●蓮華化生文説相箱 性海寺

蓮華化生文説相箱 個人

●土偶(山形県杉沢遺跡出土) 当館

●縄文土器・土偶・祭祀具(小野コレクション) 当館

●青森・岩手県出土) 当館

●銅鐸(愛媛県川之江市出土) 当館

●五條猫塚古墳出土品 妙国寺

●蓮華文鬼瓦(伝奈良県奥山久米寺出土) 当館

●蓮華文鬼瓦(伝奈良県山崎村廢寺出土) 京都国立博物館

●蓮華文鬼瓦(伝奈良県葉師寺出土) 京都国立博物館

●鬼面文鬼瓦(伝奈良県大安寺出土) 京都国立博物館

●鬼面文鬼瓦(奈良県秋篠寺出土) 個人

●鬼面文鬼瓦(愛知県社山古窯出土) 個人

●粟原寺伏鉢 談山神社

●中宮寺塔心礎上面出土品 中宮寺

●靈安寺塔跡出土鎮壇具 当館

●佐井寺僧道葉墓出土品 当館

●山代忌寸真作墓誌 当館

●出雲荻狩古墓出土品 当館

●青磁鉢 正暦寺

●陶製経筒(愛媛県北条市出土) 当館

●銅板経(天分県長安寺経塚出土) 長安寺

●青石経(愛媛県大日堂経塚出土) 当館

●泥塔経(鳥取県智積寺経塚出土) 当館

※●国宝、○重要文化財

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

【表紙写真解説】

国宝

信貴山縁起絵巻 延喜加持巻より

劍の護法童子

紙本著色 縦三一・八cm 長二二五・四cm
平安時代(十二世紀)
奈良・朝護孫子寺

全身に剣をまとい、金輪を転じながら大空を駆けめぐる童子。国宝「信貴山縁起絵巻」に登場するヒーロー、劍の護法童子である。延喜の帝(醍醐天皇)の病氣平癒祈願を依頼された信貴山の僧・命蓮は、山に留まったまま法力によりこの童子を宮中に派遣し、帝の病は無事平癒したという。毘沙門天二十八使者の白描図像には、剣を身にまとい飛行する使者の姿が描かれており、また毘沙門天が遣わした飛行夜叉が金輪を掲げて国王の寿命を延ばすという仏教説話も、平安時代には広く知られていたようだ。劍の護法童子は、こうした図像や説話をもとに、信貴山朝護孫子寺の本尊・毘沙門天王の靈験を具現化した存在なのだろう。

谷口耕生(当館学芸部教育室長)

◆奈良国立博物館賛助会

平成28年3月31日現在、一般会員(個人)49名、一般会員(団体)17団体、特別会員4団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。

◆キャンパスメンバーズ

平成28年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都産業大学、京都産業大学附属高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部、奈良文化高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学部 (以上、五十音順)

❖ イベント情報 ❖

■ 親子のワークショップ

『空とぶ鉢』のお話し絵巻を作ろう!

日 時：4月30日(土)

①午前10時～12時 ②午後1時30分～3時30分

会 場：当館講堂

対 象：小学1年生～6年生とその保護者

(各回20組40名 事前申込み・先着順)

料 金：1組につき材料費500円

応募方法：4月9日(土)～4月25日(月)必着

◆WEBから

奈良国立博物館ホームページ <http://www.narahaku.go.jp>

専用の申込み画面より必要事項を入力してください。

◆往復はがき

往復はがきに①住所②参加者全員の名前と年齢・学年③電話番号④参加希望回を書いて以下の宛先にお送りください。

※定員になり次第、募集は締め切らせていただきます。

申込先：〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館 学芸部教育室

主 催：奈良国立博物館、読売新聞社

■ 特別展「国宝 信貴山縁起絵巻」スタンプラリー

特別展「国宝 信貴山縁起絵巻」会期中、スタンプラリーを実施します。スタンプは、朝護孫子寺内の5か所と展覧会場の合計6か所に設置されています。すべてのスタンプを集めた方には記念品をプレゼントします。詳細は当館ホームページをご覧ください。

朝護孫子寺では、秘仏・毘沙門天王像の特別公開も実施します(拝観料500円)。また、本展の観覧券を提示すると、本堂での戒壇巡りを無料で体験していただけます。

■ 信貴山真華流によるいけばなの展示

特別展「国宝 信貴山縁起絵巻」会期中、当館西新館1階にて信貴山真華流による「いけばな」を展示します。

※ご覧いただくには本展の観覧券が必要です。

■ しぎとらくんが奈良博にやってくる!

信貴山観光協会のゆるキャラ「しぎとらくん」が当館新館入口に登場いたします(写真撮影自由)。

実施日：4月9日(土)、16日(土)、30日(土)

※詳細は決まり次第、当館ホームページ等でお知らせいたします。

■ なら仏像館リニューアルオープン記念品配布

なら仏像館のリニューアルオープンを記念して、なら仏像館に入館されたお客様に記念品を配布いたします。

配布日：平成28年4月29日(金・祝)～5月1日(日)

※各日先着200名ずつ

❖ 第45回 奈良国立博物館 夏季講座 ❖

「律宗の歴史と美術—鑑真から忍性にへ」

奈良国立博物館では、この夏に生誕800年記念特別展「忍性一救済に捧げた生涯—」を開催します。これに関連して今回の夏季講座では、奈良時代に来朝した鑑真に始まり鎌倉時代の叡尊・忍性に至る「律宗」の歴史と美術について、様々な研究分野の第一線でご活躍の先生方をお招きし、ご講演を頂きます。

開催日：平成28年8月17日(水)～19日(金)

主 催：奈良国立博物館

会 場：奈良県文化会館 国際ホール(近鉄奈良駅から徒歩約5分)

受講料：3,500円(会場費、テキスト代を含む)

定 員：600名

応募方法：往復はがきによる郵送に限ります。

* 往信用はがきに「夏季講座参加希望」と書き、[氏名(ふりがな)・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢]を明記してください。

* 返信用はがきには宛名を記入してください。

* はがき1枚につき1名のみのお申し込みとなります。

* 受付開始日以前に到着したはがきは無効とさせていただきます。

* 応募多数の場合、抽選で決定とさせていただきます。

受付期間：5月16日(月)～6月6日(月)必着

* 6月17日(金)までに返信用はがきにて受入の可否及び受講料の振込口座をお知らせいたします。

* お振込が完了した方のみにお申し込みをさせていただきます。

申込先：〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館 教育室

※応募方法が従来と異なりますのでご注意ください。

* ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.narahaku.go.jp/>

❖ 特別展「国宝 信貴山縁起絵巻」公開講座 ❖

■ 4月23日(土)

「後白河法皇の信仰世界—神仏との交歓—」

京都府立大学准教授 横内裕人氏

■ 5月7日(土)

「信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰」

当館学芸部教育室長 谷口耕生

■ 5月21日(土)

「信貴山縁起絵巻について」 当館名誉館員 梶谷亮治氏

時間：各回とも13:30～15:00

(13:00に開場し、入場券を配布。入場受付は講演開始30分後まで)

会場：当館講堂

◆定員194名。聴講無料。入場の際には、特別展「国宝 信貴山縁起絵巻」の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

❖ 朝護孫子寺による講話 ❖

■ 4月22日(金)

「毘沙門天王信仰の欲と徳」

朝護孫子寺成福院貫主 鈴木貴晶師

■ 5月10日(火)

「信貴山の毘沙門天王」

朝護孫子寺千手院貫主 田中眞瑞師

■ 5月12日(木)

「福の神様 毘沙門天王」

朝護孫子寺玉蔵院貫主 野澤密孝師

時間：各回とも13:30～15:00 (13:00に開場し、入場券を配布)

会場：当館講堂

◆定員194名。聴講無料。入場の際には、特別展「国宝 信貴山縁起絵巻」の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

❖ サンデートーク ❖

■ 4月17日(日) 「空海の舍利信仰の源流を求めて」

内藤 栄 (当館学芸部長)

弘法大師空海は帰国に際し南インド伝来の仏舎利を請来し、後七日御修法を始めました。その源流を空海が訪れた中国、さらにスリランカの舍利信仰に探ります。

■ 5月15日(日) 「大峯山寺蔵王権現像と平安・鎌倉時代の金銅仏制作」

山口 隆介 (当館学芸部研究員)

平安・鎌倉時代には、木彫仏に比べればはるかに少ないものの、金銅仏の制作も連続と続けられていました。その特色や意義について、奈良・大峯山寺に伝来した26軀の蔵王権現像を例に考えます。

■ 6月19日(日) 「白鳳期菩薩像にみる特異な着衣形式について」

岩井 共二 (当館学芸部情報サービス室長)

白鳳期(7世紀後半～710年)の菩薩像には、他の時代の菩薩像には見られない変わった着衣形式が見られます。その多彩な形式の分析から白鳳仏の魅力にせまります。

■ 7月17日(日) 「文化財を科学するⅢ」

鳥越 俊行 (当館学芸部保存修理指導室長)

文化財の科学的調査のお話3回目として、今回は2007年7月に世界遺産に登録された石見銀山遺跡についてお話します。

■ 8月21日(日) 「再発見された平安時代の古文書二通

—民部省符と東大寺注進状案—」

野尻 忠 (当館学芸部企画室長)

近年、長く行方不明だった史料が再発見される場面に何度か出会いました。今回はその中から延長4年(926)民部省符と天永2年(1111)東大寺注進状案を紹介します。

■ 9月18日(日) 「南都絵所の仕事」

北澤 菜月 (当館学芸部研究員)

中世の奈良で必要とされた仏教絵画を描き、社殿等の彩色をも担った南都絵所の絵師たち。その室町時代を中心とした画業について、作例を紹介しつつ、お話します。

時間：各回とも14:00～15:30

(13:30に開場し入場券配布。入場受付は講演開始30分後まで)

会場：当館講堂

◆定員194名(先着順)。聴講無料。

◆事情により話題内容が変わることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけください。

展示品の
みどころ

どう し き がた すいびょう
銅信貴形水瓶



銅製 鑄造
高27.6cm 胴径12.6cm
鎌倉～南北朝時代(13～14世紀)
奈良 朝護孫子寺

銅製の水瓶。本体は鑄造、轆轤挽きして形作り、注口、把手、蓋を設けている。低い高台を備えた胴部は、丸底で肩の張った形をしており、そこに鼓を立てるような形の頸部とともに本体をなしている。肩には牡丹で飾った基部から細長くのびる注口を取り付け、また湾曲する把手を頸部と胴部に留める。蓋には咆吼する獅子をかたどった鈕をかしめ留めする。蓋と把手はかつて蝶番でつながれ開閉できるようになっていたが、この金具は失われる。口縁部に天地逆の「信」の字が刻まれており、本品の由緒をよく伝えている。

水瓶は僧侶が仏道修行の生活の必需品として常に身近に備えた「比丘十八物」の一つに数えられる僧具であり、また仏前に浄水を供える供養具としても用いられた。用途や形態にしたがって水瓶は数種類の形式に分類することができ、遺品は奈良時代から多く残っている。

本品のように蓋と注口、把手のついた形式の水瓶は、鎌倉時代に形式が定まり、寺社をはじめ各地に伝世・出土した品がある。これを信貴山形あるいは信貴形水瓶と呼び習わすが、まさしく信貴山・朝護孫子寺に伝わる本品が、その名の由来である。

信貴形水瓶は愛媛・大山祇神社や広島・耕三寺、大阪市立美術館の品が高いが、それらと比較すると頸部のくびれなど器形に若干の崩れが見えている。しかしながら獅子や牡丹といった細部の造形は巧みで、鎌倉時代の雰囲気を残していることから、鎌倉時代末期から大きくは下らない頃に制作を位置づけられよう。

田澤 梓 (当館学芸部研究員)

◆4月9日～5月22日
特別展「国宝信貴山縁起絵巻-朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝-」にて展示

に てん の うりゅう そう
二天王立像



木造 彩色
像高 伝持国天 109.4cm
伝増長天 101.8cm
平安時代(9世紀)
奈良 室生寺

「女人高野」の名で知られる古寺、室生寺の仁王門楼上で発見された新出作品である。

ともに甲冑に身を固める武装形像で、伝持国天像は肉身を朱色に、伝増長天像は白色に彩っている。いずれも眼をかつと見ひらき、閉じた口はへしめ、忿怒の相を表す。足下の邪鬼も当初のもので、伝持国天の邪鬼は肉身を緑色に、伝増長天のそれは朱色とし、青鬼・赤鬼としている。

2軀ともに腰を左にひねり、顔を左(向かって右)に向けることから、造像当初から二天王像であったとは考えにくい。1軀は朱色、1軀は白色の肉身体であることを考慮すれば、四天王像のうちの2軀が残されたものであり、伝持国天は本来増長天、伝増長天は広目天であったのではないと思われる。

品質・構造を見ると、いずれも腕を除いた像の中心部を針葉樹(カヤカ)の一材から彫成して内刳しない堅固な構造である。腕も別材製だが大半を一材から造り出しており、その他の別材部は両肩から腰脇にかかる天衣遊離部程度にすぎない。

太造りで量感に富んだ体型が印象的である。腰を強くひねり、両腕を大きくかまえて、見得を切るようなポーズを示し、これに応じて袖先が小気味よく翻り、運動感に富んだ像容である。近似する作例として、京都・仁和寺の二天王立像(重要文化財)をあげることができる。仁和寺像は、仁和4年(888)の造立とみられる同寺金堂の日本尊阿弥陀如来及び両脇侍像と同時の作である可能性が指摘されるもので、このことから室生寺像の造立年代も9世紀末頃を中心に考えることができよう。

岩田 茂樹 (当館学芸部上席研究員)

◆4月29日～ 名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(4月～6月)

■開館時間 / 午前9時30分～午後5時
・4月29日以降の毎週金曜日は午後7時まで
※入館は、閉館の30分前まで

■休館日 / 毎週月曜日、4月8日(金)
・ただし、5月2日は開館

●無料観覧日(名品展のみ)
・5月5日(こどもの日)、5月18日(国際博物館の日)

観覧料金 特別展「国宝 信貴山縁起絵巻」

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,300円	900円	500円
団体・前売	1,100円	700円	300円

※団体は20名以上です。 ※前売券の販売は4月8日(金)まで。
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※特別展観覧券で名品展も観覧できます(4月29日以降)

観覧料金 名品展・特別陳列

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

※団体は20名以上です。
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額となります。
※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します。(子どもといっしょ割引)
※青銅器館は4月28日までは無料、4月29日以降は有料となります。
4月29日以降は、なら仏像館から入館してご覧いただけます。
※なら仏像館は、改修工事のため4月28日まで休館中です。

●=国宝、◎=重要文化財



【交通案内】近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

奈良国立博物館
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

